

報告 3. 帰国式・派遣報告会

4月18日に徳島赤十字病院で勝占看護師の「帰国式・報告会」を行いました。日浅芳一院長は「勝占さんを誇らしく思います。ご苦労様でした」と活動をねぎらい、庄野副院長兼看護部長は「過酷な現場から無事に帰ってきてくれて嬉しく思います。ほんとうにお疲れ様でした。」と職員を代表して花束を贈りました。

これに答えて勝占看護師は「職員みなさんから『お帰り！』と声をかけていただくと無事に帰ってこられたことを実感します。目の当たりにした現地のたいへんな状況を今後伝えていけたらと思います」と述べました。続いての報告会では、 Bangladesh への避難民が 83 万人を超えている現状、住環境の悪さや寒暖差の激しい気候、診療所の様子などが多くの写真で紹介されました。また、患者数、疾患の種類、低栄養児の傾向、現地での活動状況などが報告されました。「宗教や習慣の違いもあり、患者さんに寄り添うことの難しさを痛感しました」という勝占さんの言葉が印象的でした。

